

4111 地球のかおり：「天使の魂」(産経新聞) 心模様

ピレネー山脈にあるハカという街から、サンティアゴ・デ・コンポステーラまで
いわゆる、巡礼の道を走破した時のこと。

ある教会で、天使たちの一団に遭遇。こころ慰められたことがある。

先生だろうか、牧師さんだろうか。

天使たちは、一生懸命、耳を傾けている。

歩き疲れた子供もいる。体力が弱いのか、訓練が足りないのか。

私は、席に座り、やりとりを楽しんだ。

子供たちの仕草や、後ろ姿を見るのが楽しい。時折、振り返る。

どんな大人になっていくのだろう。そのとき思った。

今の心の有り様、魂を忘れないでほしい。

素直に、誠実に、ルールを守り、学びつづける、努力の人であってほしい。

余分なことを考えず、鉄は熱いうちに打て、という言葉もある。

ものにはタイミング、絶好の機会を生かしてほしい。

やりたい時に、思い通りに行かないことが多い。

できる時に、出来ることを実践。環境が、人を育む。今を大切に。

私がイベリア半島、ポルトガル・スペインを訪ねたのは、6月だった。

8月まで、思いつくままに、心が命じるままに。

ビザは、3ヶ月。ある程度長期間、その地に身を置く、なんと贅沢なひとり旅。

現地に溶け込むことで、違いが見えてくる。

パブロナ、ブルゴス、レオン、サンティアゴ・デ・コンポステーラ、
道草が、なんとも楽しい。

スペイン国営の宿泊施設がある。パラドール。

古いお城や、領主の館、あるいは、由緒ある修道院が、ホテルになっている。

今回のひとり旅は、イベリア半島の文化を知る旅。

ガウディや、ミロ、ピカソも、関心があった。辺境のゴヤの生まれ故郷も訪ねた。

ガウディが、育った地にも、足を伸ばした。

三つ子の魂、百まで、環境が人を育む。そこにキーワードの一つがある。

京都生まれの、京育ち。仏教の考え方が、影響している。

クラークと名乗っているが、純粋の、日本人。

スペインと、日本の違いが、見えてくる。実に、興味深い。

教会や、修道院は、機会をつくって、数多く、できるだけ訪ねた。

というのも、芸術が生まれる背景を、知りたかった。

権力者や、庶民の思考を、推理。

芸術家の作品も、数多く鑑賞させていただいたが、馴染めないものも多かった。

一番興味を抱いたのは、子供たち。

子供を見ていると、その国が見えてくる。家族や、人が、見えてくる。

今、日本に帰国して、大きな違いを感じるのは、子供たちと若者。

期待を持ちすぎるからだろうか。あまり、好ましくないと感じる部分も多い。

素直に、純粋に、育ててもらうために、

大人たちは、もっと努力すべきではないだろうか、と感じた。

教会での、子供たちの目の輝き、羨ましく感じた。

日本を訪ねる外国人、欧米系の外国の若者は、メモをとり、日本を勉強する。

資料など持参。ともかく、熱心に思える。片寄った見方だろうか。

外国に、行きたがらない若者が、増えているという。

日本は、小さな島国。海外との関わり、なくして、未来はない。

際立った違いが、見えてくる。これでは困る。

この教会での、子供たちの熱心さが、印象深く、残っている。

やる気×能力＝、掛け算である。能力が、いくらあっても、やる気がゼロなら

答えは、ゼロ。島国、団体行動、脱却する時ではないだろうか。

子供たちの明日に、希望の持てる国でありたい。

まず、意識してくれる子供がいることは、ありがたい。

現実、家庭が崩壊しつつある。子供たちは、何から、学ばばいいのか。

ふと、思った。